

Title	まえがき
Author(s)	山下, 正男
Citation	人文學報 = The Zinbun Gakuh : Journal of Humanities (1995), 76: [1]
Issue Date	1995-03
URL	https://doi.org/10.14989/48457
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

まえがき

以下に掲載する8篇の論文は京都大学人文科学研究所共同研究班の一つである「正義システムの諸相」班の成果である。

「正義システムの諸相」班の研究会は1992年4月から1994年3月までおこなわれた。そして当初の方針は「義務論理学を強力な武器としながら、(1)正義の観念論的諸体系、(2)正義の法的諸体系、(3)正義の法的諸体系のサバイバル・テストといった三つの順序で正義の諸体系を研究する」といったものであった。

このような呼び掛けに賛同し、研究に参加して下さったメンバーの名前、および研究発表をおこなって下さった方々の名前とタイトルを以下に掲げて記録に留めたい。

メンバー 山下正男 井狩彌介(以上所内) 足立幸男(総合人間学部) 小越義雄 川浜昇 田中成明 山本克己 山本敬三(以上法学部) 浜野研三(文学部) 阿部昌樹(大阪市大) 今井弘道(北大) 植松秀雄 江口三角(以上岡山大) 亀本洋(金沢大) 玉木秀敏(大阪学院大) 中山竜一(近畿大) 服部高宏(国学院大) 平井亮輔(京都工繊大) 平野仁彦(三重大) 深田三徳(同志社大) 松浦好治(大阪大) 森際康友(名古屋大) 山本顕治(滋賀大) 若松良樹(東和大) アスキュー・デイビッド 植木一幹 樺島博志 那須耕介 ノッテジ・ルーク 福井秀樹 耳野健二 毛利康俊(なお研究会終了後以下のメンバーは転任となった。山下正男は近畿大へ。亀本洋は早稲田大へ。服部高宏は岡山大へ。平野仁彦は立命大へ。山本顕治は九大へ。若松良樹は成城大へ。植木一幹は関学大へ。)

1992年

5月8日	今後の研究方針	全員
5月22日	権利と効用	山下
6月12日	ハイエクのビデオを見る会	アスキュー
6月26日	比喩と正義論	松浦
7月10日	研究の進め方についての検討会	全員
9月25日	二種の社会契約論に関する予備的考察	福井
10月9日	正義論の対象—行為・結果・制度—	若松
10月23日	憲法の私人間適用問題の再検討	山本(敬)
11月6日	ハイエクの科学論を読む	那須
11月27日	カール・シュミットにおける制度に関する理論について	樺島
12月11日	公共政策における「正義」	足立

1993年

1月22日	人間の本性の存在とその道徳的意味	浜野
-------	------------------	----

5月21日	F・ハフトの「交渉術」論	服部
6月11日	法の不確定性とプラグマティックな法学の可能性	グレッグ
6月25日	フェアネスとしての正義と論理学	山下
7月9日	人権概念をめぐる諸理論について—国際人権法を中心にして—	深田
9月24日	事故法における正義	浅野
10月8日	正義感覚と法行動	阿部
10月22日	民族と国家—国家における自由の第三段階—	森際
11月5日	法・正義・歴史—とりわけF・エヴァルドを中心としたフーコー派正義論に関して—	中山
11月26日	契約と日常的正義	ノッテジ
12月10日	帰国報告	亀本, 川浜

いろいろの事情で論文を掲載していただけなかった方々も、研究会に出席し、熱心に発表や討論をおこなっていただいた。思い出多い本研究会を終了するに当たってメンバー全員に改めて厚く感謝の意を表したい。

1994年11月14日

班長 山下 正男